

2024年3月29日

岡本硝子株式会社

取締役会の実効性に関する評価結果の概要

当社は、取締役会に期待されている機能が適切に果たされているかを検証し、その向上を図っていくために、毎年、取締役会の実効性の評価を実施しております。当社取締役会の実効性について、分析・評価を行いましたので、その結果の概要を下記の通り公表いたします。

記

1. 評価の方法

取締役会の実効性に関する質問票を取締役、監査役及び執行役員に配布し回答を得ました。この回答について社外取締役及び監査役は取締役会の実効性に関する分析を行い、その分析について取締役会は審議いたしました。

(1)対象者

取締役7名、監査役3名、執行役員6名 計16名

(2)方法・内容

実施時期: 2023年11月17日

回答方法: 3段階評価+自由記入欄/記名式

評価項目:

- ①経営戦略について
- ②意思決定プロセスについて
- ③取締役選解任について
- ④企業価値の破壊防止について

2. 分析・評価結果の概要

取締役会の実効性を「経営判断の原則に沿ったプロセスを取った上で、企業価値の向上のために必要なリスクを取る意思決定がなされていること」と捉え、適切な意思決定プロセスが実施されているか、企業価値の破壊防止について取締役会の不作為がないかという観点で評価を行いました。その結果、以下の観点から、取締役会の実効性は維持されていると判断いたしました。

- ・事業ポートフォリオを革新し、成長とレジリエンス強化を実現させる長期方針に基づき中期経営計画が作成され、中期経営計画の戦略及び目標値は、毎年その進捗がモニタリングされている。
- ・取締役会は、中期経営計画(GROWTH25、GROWTH28)の実現に必要な、多様な知見・経験を有する取締役により構成されており、これは企業価値の向上と破壊防止に資するものである。
- ・透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定のため、社外取締役を含む取締役は、必要に応じて会社に追加情報の提供を要求し、これに対して会社は、逐次の回答並びに取締役会及び毎月行われる業績会議の資料などにより適切に対応している。
- ・社外取締役は、経営者としての経験と幅広い見識、ガラス技術、知財管理、生産管理、原価管理、販売管理等の知識と経験に基づいて事業全般の展開への積極な意見を発信しており、選任において期待された役割を十分に果たしている。
- ・2023年4月に次のガバナンス管理体制の刷新を行った。
 - ①常勤役員会の設置
 - ②リスク対応委員会から一部の機能を分離し、新たにコンプライアンス委員会を設置

③サステナビリティ推進室の設置

④人材評価委員会の設置

このことにより全社的なリスク管理体制の整備が進み、取締役会は、中期経営計画(GROWTH25)の遂行においてコアとなる事業分野で積極的なリスクテイクが可能となった。

3. 前回の実効性評価を受けた取り組み

前回(2022年11月16日実施)で認識した課題の内、次の事項につき、取り組みを実施しました。

- ・ 「長期ビジョンからのバックキャストによる戦略策定」、「知財・無形資産の可視化及び知財・無形資産の活用による戦略構築」
⇒ 当社ガラス成型の将来ビジョンに向けて、光学ガラスの市場要求を未来予測し、新規特許出願を含めた知財戦略を進めています。
- ・ 「人的資本の可視化及び人材戦略の構築」、「次世代経営者育成に資する執行役員を選考と業績評価」
⇒ 人材評価委員会が取締役候補選考、執行役員候補選考のための多面評価を行い、その報告を踏まえて取締役会は審議しています。
- ・ 「脱炭素社会実現への取り組み」
⇒ サステナビリティ推進室を事務局として中長期戦略の策定を進めています。

4. 今後の重点テーマ

次の事項については、引き続き重点テーマとして取り組んでまいります。

- ・ 「原燃料価格高騰、金利上昇など様々なリスクシナリオを踏まえた中期経営計画」
- ・ 「経営理念や具体的な経営戦略を踏まえ、最高経営責任者等の後継者計画の策定・運用」

以 上